



S3バケットを管理する

StorageGRID software

NetApp
July 23, 2026

目次

S3バケットを管理する	1
StorageGRID S3バケットを作成する	1
ウィザードにアクセスする	1
詳細を入力	1
設定の管理	2
StorageGRID で S3 バケットの詳細を表示する	4
StorageGRIDブランチバケットについて学ぶ	6
ブランチバケットの使用例	7
ブランチバケット内のオブジェクトに対する操作	7
StorageGRID ブランチバケットを管理	8
ブランチバケットを作成する	9
詳細を入力	9
オブジェクト設定の管理（オプション）	10
StorageGRID バケットに ILM ポリシータグを適用する	12
StorageGRIDバケットポリシーを管理	13
StorageGRIDバケットの整合性を管理	14
バケットの整合性に関するガイドライン	14
バケットの整合性の変更	14
バケットの設定を変更するとどうなりますか？	15
StorageGRIDで最終アクセス時刻の更新を有効または無効にする	16
StorageGRID の S3 バケットのオブジェクトバージョニングを変更する	18
S3オブジェクトロックを使用してStorageGRIDでオブジェクトを保持します	19
S3オブジェクトロックとは何ですか？	19
S3オブジェクトロックタスク	21
S3オブジェクトロックが有効になっているバケットの要件	21
S3オブジェクトロックが有効になっているバケット内のオブジェクトの要件	22
S3オブジェクトロックが有効になっているバケット内のオブジェクトのライフサイクル	22
従来の準拠バケットは引き続き管理できますか？	22
StorageGRIDでS3オブジェクトロックのデフォルトの保持期間を更新	23
StorageGRIDでS3バケットのCORSを設定する	24
バケットのCORSを有効にする	25
CORS設定を変更する	25
CORS設定を無効にする	26
StorageGRID S3バケットからオブジェクトを削除する	26
StorageGRID S3 バケットを削除する	29
StorageGRIDでS3コンソールを使用する	30

S3バケットを管理する

StorageGRID S3バケットを作成する

テナントマネージャーを使用して、オブジェクトデータ用のS3バケットを作成できます。

開始する前に

- テナントマネージャーに ["対応ウェブブラウザ"](#) を使用してサインインしています。
- あなたは、Root access またはすべてのバケットを管理する権限を持つユーザーグループに属しています ["アクセス権"](#)。これらの権限は、グループポリシーまたはバケットポリシーの権限設定を上書きします。



バケットまたはオブジェクトの S3 オブジェクト ロック プロパティを設定または変更する権限は、["バケットポリシーまたはグループポリシー"](#)によって付与できます。

- バケットに対して S3 オブジェクトロックを有効にする予定がある場合、グリッド管理者が StorageGRID システムのグローバル S3 オブジェクトロック設定を有効にしており、S3 オブジェクトロックのバケットとオブジェクトの要件を確認済みであること。
- 各テナントが5,000個のバケットを持つ場合、グリッド内の各ストレージノードには最低でも64 GB のRAMが必要です。



各グリッドには最大100,000個のバケットを含めることができます (["ブランチバケット"](#)を含む)。

ウィザードにアクセスする

手順

1. ダッシュボードから「バケットの表示」を選択するか、**STORAGE (S3) > Buckets** を選択してください。
2. 「バケットの作成」を選択します。

詳細を入力

手順

1. バケットの詳細を入力してください。

フィールド	説明
バケット名	これらのルールに準拠したバケット名： - 各 StorageGRID システム全体で一意である必要があります（テナントアカウント内だけでなく）。 - DNS規格に準拠している必要があります。 3文字以上63文字以内である必要があります。 - 各ラベルは小文字の英字または数字で始まり、小文字の英字または数字で終わる必要があります、使用できる文字は小文字の英字、数字、およびハイフンのみです。 - 仮想ホスト型スタイルのリクエストには、ピリオドを含めてはいけません。ピリオドは、サーバーのワイルドカード証明書の検証に問題を引き起こします。 詳細については、"Amazon Web Services (AWS) のバケット命名規則に関するドキュメント"を参照してください。 注：バケットを作成した後は、バケット名を変更することはできません。
リージョン	バケットのリージョン。 StorageGRID管理者が利用可能なリージョンを管理します。バケットのリージョンは、オブジェクトに適用されるデータ保護ポリシーに影響する場合があります。デフォルトでは、すべてのバケットは `us-east-1` リージョンに作成されます。デフォルトリージョンが `us-east-1` 以外のリージョンに設定されている場合、ドロップダウンリストでは最初にそのリージョンが選択されます。 注：バケット作成後にリージョンを変更することはできません。

2. *続行*を選択します。

設定の管理

手順

1. 必要に応じて、バケットのオブジェクトバージョン管理を有効にします。

このバケットに各オブジェクトのすべてのバージョンを保存する場合は、オブジェクトのバージョン管理を有効にしてください。必要に応じて、オブジェクトの以前のバージョンを取得できます。

オブジェクトのバージョン管理を有効にする必要があるのは、以下の場合です。

- このバケットは、グリッド間レプリケーションに使用されます。
- このバケットから["ブランチバケット"](#)を作成します。

2. グローバルな S3 オブジェクトロック設定が有効になっている場合、必要に応じてバケットの S3 オブジェクトロックを有効にして、write-once-read-many（WORM）モデルを使用してオブジェクトを保存します。

S3オブジェクトロックは、例えば特定の規制要件を満たすために、オブジェクトを一定期間保持する必要がある場合にのみ、バケットに対して有効にしてください。S3オブジェクトロックは、一定期間または無期限にオブジェクトの削除や上書きを防止する永続的な設定です。



バケットに対してS3オブジェクトロック設定を有効にすると、無効にすることはできません。適切な権限を持つユーザーであれば誰でも、変更できないオブジェクトをこのバケットに追加できます。これらのオブジェクトやバケット自体を削除できない場合があります。

バケットに対してS3オブジェクトロックを有効にすると、バケットのバージョン管理が自動的に有効になります。

3. 「S3オブジェクトロックを有効にする」を選択した場合は、必要に応じてこのバケットの「デフォルト保持」を有効にしてください。



グリッド管理者から"[S3オブジェクトロックの特定の機能を使用する](#)"の権限を付与してもらう必要があります。

*デフォルト保持*が有効になっている場合、バケットに追加された新しいオブジェクトは、削除または上書きされないように自動的に保護されます。*デフォルト保持*設定は、独自の保持期間が設定されているオブジェクトには適用されません。

- a. *デフォルト保持*が有効になっている場合は、バケットの*デフォルト保持モード*を指定してください。

デフォルトの保持モード	説明
ガバナンス	• `s3:BypassGovernanceRetention` 権限を持つユーザーは、`x-amz-bypass-governance-retention: true` リクエストヘッダーを使用して保持設定をバイパスできます。 • これらのユーザーは、オブジェクトのバージョンが保持期限に達する前に削除できます。 • これらのユーザーは、オブジェクトの保持期限を増減または削除できます。
コンプライアンス	• オブジェクトは、保持期限が到来するまで削除できません。 • オブジェクトの保持期限は延長できますが、短縮することはできません。 • オブジェクトの保持期限日は、その日付が到来するまで削除することはできません。 注：グリッド管理者がコンプライアンスモードの使用を許可している必要があります。

- b. *デフォルト保持*が有効になっている場合は、バケットの*デフォルト保持期間*を指定してください。

*デフォルトの保持期間*は、このバケットに追加された新しいオブジェクトが、取り込まれた時点からどのくらいの期間保持されるかを示します。グリッド管理者が設定したテナントの最大保持期間以下の値を指定してください。

最大 保持期限は、グリッド管理者がテナントを作成する際に設定されます。この値は1日から100年までの範囲で設定可能です。_デフォルト_の保持期限を設定する場合、最大保持期限に設定された値を超えることはできません。必要に応じて、グリッド管理者に最大保持期限の延長または短縮を依頼してください。

4. 必要に応じて、*容量制限を有効にする*を選択し、値を入力して、容量の単位を選択します。

容量制限とは、このバケット内のオブジェクトに利用可能な最大容量のことです。この値は論理的な量（オブジェクトのサイズ）を表しており、物理的な量（ディスク上のサイズ）を表すものではありません。

制限が設定されていない場合、このバケットの容量は無制限です。詳細については、"[容量制限の使用状況](#)"を参照してください。

5. 必要に応じて、*オブジェクト数制限を有効にする*を選択します。

オブジェクト数の制限とは、このバケットに格納できるオブジェクトの最大数です。この値は論理的な量（オブジェクト数）を表します。制限が設定されていない場合、オブジェクトの数は無制限です。

6. 「バケットの作成」を選択します。

バケットが作成され、バケットページのテーブルに追加されます。

7. 必要に応じて、*バケットの詳細ページへ移動*を選択して"[バケットの詳細を表示](#)"追加の設定を行います。

また、必要に応じて"[ブランチバケットを作成する](#)"することもできます。

StorageGRID で S3 バケットの詳細を表示する

テナントアカウントでバケットを確認できます。

開始する前に

- テナントマネージャーに "[対応ウェブブラウザ](#)" を使用してサインインしています。
- あなたは、"[ルートアクセス、すべてのバケットの管理、またはすべてのバケットの表示権限](#)" を持つユーザーグループに属しています。これらの権限は、グループポリシーまたはバケットポリシーの権限設定を上書きします。

手順

1. ダッシュボードから「バケットの表示」を選択するか、**STORAGE (S3) > Buckets** を選択してください。

「バケット」ページが表示されます。

2. 各バケットの概要テーブルを確認してください。

必要に応じて、任意の列で情報を並べ替えたり、リストを前後に移動したりできます。



表示されているオブジェクト数、使用容量、および使用状況の値は推定値です。これらの推定値は、データ取り込みのタイミング、ネットワーク接続性、およびノードの状態によって影響を受けます。バケットでバージョン管理が有効になっている場合、削除されたオブジェクトのバージョンもオブジェクト数に含まれます。

Name

バケットの固有名。変更することはできません。

有効な機能

バケットで有効になっている機能の一覧。

S3 Object Lock

バケットに対してS3オブジェクトロックが有効になっているかどうか。

この列は、グリッドに対してS3オブジェクトロックが有効になっている場合にのみ表示されます。この列には、従来の準拠バケットに関する情報も表示されます。

リージョン

バケットのリージョンは変更できません。この列はデフォルトでは非表示になっています。

オブジェクト数

このバケット内のオブジェクトの数。バケットでバージョン管理が有効になっている場合、この値には最新ではないオブジェクトバージョンも含まれます。

オブジェクトが追加または削除された場合、この値はすぐに更新されない場合があります。

使用済みスペース

バケット内のすべてのオブジェクトの論理サイズ。論理サイズには、複製されたコピーや消去符号化されたコピー、またはオブジェクトのメタデータに必要な実際の容量は含まれません。

この値の更新には最大10分かかる場合があります。

用途

バケットの容量制限が設定されている場合、その制限に対する使用率。

使用量の値は社内推定値に基づいており、場合によっては超過する可能性があります。例えば、StorageGRID はテナントがオブジェクトのアップロードを開始した際に容量制限（設定されている場合）を確認し、テナントが容量制限を超えている場合は、このバケットへの新規取り込みを拒否します。ただし、StorageGRID は容量制限を超過したかどうかを判断する際に、現在のアップロードのサイズは考慮されません。オブジェクトが削除された場合、容量制限の使用状況が再計算されるまで、テナントはこのバケットに新しいオブジェクトをアップロードできなくなる場合があります。計算には10分以上かかる場合があります。

この値は、オブジェクトとそのメタデータを格納するために必要な物理的なサイズではなく、論理的なサイズを示しています。

Capacity

設定されている場合、バケットの容量制限。

作成日

バケットが作成された日時。この列はデフォルトでは非表示になっています。

3. 特定のバケットの詳細を表示するには、表からバケット名を選択してください。

- a. ウェブページ上部の概要情報を参照して、リージョンやオブジェクト数など、バケットの詳細を確認してください。

- b. 容量制限の使用状況とオブジェクト数制限の使用状況を示すバーを表示します。使用率が100%またはそれに近い場合は、制限値を上げるか、一部のオブジェクトを削除することを検討してください。
- c. 必要に応じて、*バケット内のオブジェクトを削除*と*バケットを削除*を選択してください。



これらのオプションを選択する際に表示される警告に十分注意してください。詳細については、以下を参照してください。

- ["バケット内のすべてのオブジェクトを削除する"](#)
- ["バケットを削除する"](#)（バケットは空である必要があります）

- d. 必要に応じて、各タブでバケットの設定を表示または変更してください。
 - **S3コンソール**：バケット内のオブジェクトを表示します。詳細については、["S3コンソールを使用する"](#)を参照してください。
 - **バケットオプション**：オプション設定を表示または変更します。S3 Object Lockなどの一部の設定は、バケット作成後に変更できません。
 - ["バケットの一貫性を管理する"](#)
 - ["最終アクセス時刻の更新"](#)
 - ["容量制限"](#)
 - ["オブジェクト数の制限"](#)
 - ["オブジェクトのバージョン管理"](#)
 - ["S3 Object Lock"](#)
 - ["デフォルトのバケット保持期間"](#)
 - ["クロスグリッドレプリケーションを管理する"](#)（テナントに許可されている場合）
 - **プラットフォームサービス**：["プラットフォームサービスを管理する"](#)（テナントに許可されている場合）
 - **バケットへのアクセス**：オプション設定を表示または変更します。特定のアクセス権限が必要です。
 - バケットおよびバケット内のオブジェクトが他のドメインのWebアプリケーションからアクセスできるように、["バケットとオブジェクトのCORS"](#)を設定します。
 - ["ユーザーアクセスを制御する"](#)S3バケットとそのバケット内のオブジェクトに対して。
 - **ブランチ**：バケットのブランチバケットの一覧を表示します。["新しいブランチバケットを作成するか、ブランチバケットを管理する"](#)。

StorageGRIDブランチバケットについて学ぶ

ブランチバケットを使用すると、バケット内のオブジェクトを特定の時点の状態で取得できます。

既存のバケットからブランチバケットを作成します。ブランチバケットを作成すると、そのブランチバケットの作成元となった元のバケットは_ベースバケット_と呼ばれます。さらに、別のブランチバケットからブランチバケットを作成することもできます。

ブランチバケットは保護されたデータへのアクセスを提供しますが、バックアップとしては機能しません。データの保護を継続するには、ベースバケットで以下の機能を使用してください：

- "S3 Object Lock"
- "クロスグリッド複製"基本バケット用
- "バケットポリシー"バージョン管理されたバケットで古いオブジェクトバージョンをクリーンアップする

ブランチバケットの以下の特徴に注意してください。

- ブランチバケット内のオブジェクトには、"S3コンソールでオブジェクトをダウンロードする"を使用してアクセスできます。
- クライアントがブランチバケット内のオブジェクトにアクセスすると、ベースバケットのポリシーではなく、ブランチバケットの"アクセスポリシー"によって、アクセスを許可するか拒否するかが決定されます。
- ベースバケットで作成されたオブジェクトは、"ILMルール"がベースバケットにどのように適用されるかに基づいて評価されます。ブランチバケット内で作成されたオブジェクトは、ILMルールがそのブランチバケットにどのように適用されるかに基づいて評価されます。
- ブランチバケットでは、クロスグリッドレプリケーションはサポートされていません。
- ブランチバケットではプラットフォームサービスはサポートされていません。

ブランチバケットの使用例

- ブランチバケットを使用すると、破損が発生する前の時点からブランチバケットを作成し、アプリケーションを破損オブジェクトを含むベースバケットではなく、そのブランチバケットに向けることで、破損オブジェクトを削除できます。
- バージョン管理されたバケットにデータを保存しています。時間 T 以降に、意図しない多数のオブジェクトが取り込まれるという偶発的な脆弱性が発生しました。「Before」時間値 T に対応するブランチバケットを作成し、クライアント操作をそのブランチバケットにリダイレクトすることができます。これにより、Before 時間 T より前に取り込まれたオブジェクトのみがクライアントに公開されます。

ブランチバケット内のオブジェクトに対する操作

- ブランチバケットに対するPUTオブジェクト操作は、そのブランチ内にオブジェクトを作成します。
- ブランチバケットに対するGETオブジェクト操作は、ブランチからオブジェクトを取得します。オブジェクトがブランチバケットに存在しない場合、ベースバケットからオブジェクトが取得されます。
- ブランチバケットからのオブジェクト削除は、次のように行われます。

処理	ターゲット	結果	ベースバケット内のオブジェクトの可視性	ブランチバケット内のオブジェクトの可視性
バージョンIDなしで削除	ベースバケット	削除マーカースはベースバケットに対してのみ作成されます	HEAD/GETはオブジェクトが存在しないことを返しますが、特定のバージョンには引き続きアクセスできます	HEAD/GETはオブジェクトが存在することを返し、特定のバージョンには引き続きアクセスできます 削除マーカースはブランチバケットの`beforeTime`後に作成されます。
バージョンIDで削除	ベースバケット	ベースバケットとブランチバケットの両方で、特定のオブジェクトバージョンが削除されます。	HEAD/GETリクエストで「オブジェクトバージョンが存在しません」というエラーが返されます	HEAD/GETリクエストで「オブジェクトバージョンが存在しません」というエラーが返されます
バージョンIDなしで削除	ブランチバケット	削除マーカースはブランチバケットに対してのみ作成されます	HEAD/GETはオブジェクトを返します（ベースバケットオブジェクトは影響を受けません）	HEAD/GETリクエストで「オブジェクトが存在しません」というエラーが返されます
バージョンIDで削除	ブランチバケット	特定のオブジェクトバージョンは、ブランチバケットに対してのみ削除されます。	HEAD/GETは特定のオブジェクトバージョンを返します（ベースバケットオブジェクトは影響を受けません）	HEAD/GETリクエストで「オブジェクトバージョンが存在しません」というエラーが返されます

また、["S3 バージョン管理されたオブジェクトはどのように削除されるのか"](#)を参照してください。

StorageGRID ブランチバケットを管理

テナントマネージャーを使用して、ブランチバケットの作成と詳細の表示を行います。

開始する前に

- ["対応ウェブブラウザ"](#)を使用してTenant Managerにサインインしました。
- あなたはルートアクセスまたは["すべてのバケットの権限を管理する"](#)を持つユーザーグループに属しています。これらの権限は、グループポリシーまたはバケットポリシーの権限設定を上書きします。
- ブランチを作成するベースバケットには["バージョン管理が有効になっています"](#)があります。
- あなたはベースバケットの所有者です。

タスク概要

ブランチバケットについては、以下の情報にご注意ください。

- バケットまたはオブジェクトの S3 オブジェクトロックプロパティを設定する権限は、["バケットポリシーまたはグループポリシー"](#)によって付与できます。

- ベースバケットでバージョン管理を一時停止すると、ベースバケットの内容はブランチバケットに表示されなくなります。



ブランチバケットを設定して作成した後は、設定を変更することはできません。

ブランチバケットを作成する

手順

1. ダッシュボードから「バケットの表示」を選択するか、**STORAGE (S3) > Buckets** を選択してください。
2. ブランチを作成する元のバケット（「ベースバケット」）を選択してください。
3. バケットの詳細ページで、「Branches」>「Create branch bucket」を選択します。

ベースバケットでバージョン管理が有効になっていない場合、「ブランチバケットを作成」ボタンは無効になります。

詳細を入力

手順

1. ブランチバケットの詳細を入力してください。

フィールド	説明
ブランチバケット名	これらのルールに準拠するブランチバケットの名前： • 各 StorageGRID システム全体で一意である必要があります（テナントアカウント内だけでなく）。 • DNS規格に準拠している必要があります。 • 3文字以上63文字以内である必要があります。 • 各ラベルは小文字の英字または数字で始まり、小文字の英字または数字で終わる必要があります、使用できる文字は小文字の英字、数字、およびハイフンのみです。 • 仮想ホスト型スタイルのリクエストには、ピリオドを含めてはいけません。ピリオドは、サーバーのワイルドカード証明書の検証に問題を引き起こします。 詳細については、"Amazon Web Services (AWS) のバケット命名規則に関するドキュメント"を参照してください。 注：ブランチバケットを作成した後は、名前を変更できません。
リージョン（ブランチバケットでは変更できません）	ブランチバケットのリージョン。 ブランチバケットのリージョンはベースバケットのリージョンと一致する必要があるため、このフィールドはブランチバケットでは無効になっています。

フィールド	説明
事前に	ベースバケットで作成されたオブジェクトバージョンがブランチバケットからアクセス可能になる期限。ブランチバケットを使用すると、Before タイムより前に作成されたオブジェクトバージョンにアクセスできます。 「以前」とは、既に経過した日付と時刻を指します。未来の日付は指定できません。
ブランチバケットタイプ	- 読み書き：ブランチバケット内のオブジェクトまたはオブジェクトバージョンを追加または削除できます。 - 読み取り専用：ブランチバケット内のオブジェクトは変更できません。 注: ブランチバケットが空の場合に限り、ブランチバケットのタイプを読み取り専用に設定できます。既存のブランチバケットのタイプが読み書き可能に設定されていて、まだ書き込みを行っていない場合は、タイプを読み取り専用に変更できます。

2. *続行*を選択します。

オブジェクト設定の管理（オプション）

ブランチバケットのオブジェクト設定は、ベースバケット内のオブジェクトバージョンには影響しません。

手順

1. グローバルなS3オブジェクトロック設定が有効になっている場合は、必要に応じてブランチバケットのS3オブジェクトロックを有効にします。S3オブジェクトロックを有効にするには、ブランチバケットが読み書き可能なバケットである必要があります。

ブランチバケットに対してS3オブジェクトロックを有効にするのは、たとえば特定の規制要件を満たすために、オブジェクトを一定期間保持する必要がある場合に限ってください。S3オブジェクトロックは、一定期間または無期限にオブジェクトの削除や上書きを防止する永続的な設定です。



バケットに対してS3オブジェクトロック設定を有効にすると、無効にすることはできません。適切な権限を持つユーザーであれば誰でも、変更できないオブジェクトをブランチバケットに追加できます。これらのオブジェクトやブランチバケット自体を削除できない場合があります。

2. 「S3 Object Lock を有効にする」を選択した場合は、必要に応じてブランチバケットの「デフォルトの保持期間」を有効にしてください。



グリッド管理者から"[S3オブジェクトロックの特定の機能を使用する](#)"の権限を付与してもらう必要があります。

*デフォルト保持*が有効になっている場合、ブランチバケットに追加された新しいオブジェクトは、削除または上書きされないように自動的に保護されます。*デフォルト保持*の設定は、独自の保持期間が設定されているオブジェクトには適用されません。

- a. *デフォルト保持*が有効になっている場合は、ブランチバケットの*デフォルト保持モード*を指定してください。

デフォルトの保持モード	説明
ガバナンス	• `s3:BypassGovernanceRetention`権限を持つユーザーは、`x-amz-bypass-governance-retention: true`リクエストヘッダーを使用して保持設定をバイパスできます。 • これらのユーザーは、オブジェクトのバージョンが保持期限に達する前に削除できます。 • これらのユーザーは、オブジェクトの保持期限を増減または削除できます。
コンプライアンス	• オブジェクトは、保持期限が到来するまで削除できません。 • オブジェクトの保持期限は延長できますが、短縮することはできません。 • オブジェクトの保持期限日は、その日付が到来するまで削除することはできません。 注：グリッド管理者がコンプライアンスモードの使用を許可している必要があります。

- b. *デフォルト保持*が有効になっている場合は、ブランチバケットの*デフォルト保持期間*を指定してください。

*デフォルトの保持期間*は、ブランチバケットに追加された新しいオブジェクトを、取り込まれた時点からどのくらいの期間保持するかを示します。グリッド管理者が設定したテナントの最大保持期間以下の値を指定してください。

最大保持期限は、グリッド管理者がテナントを作成する際に設定されます。この値は1日から100年までの範囲で設定可能です。デフォルトの保持期限を設定する場合、最大保持期限に設定された値を超えることはできません。必要に応じて、グリッド管理者に最大保持期限の延長または短縮を依頼してください。

3. 必要に応じて、*容量制限を有効にする*を選択します。

容量制限とは、ブランチバケットで使用可能な最大容量のことです。この値は論理的な量（オブジェクトのサイズ）を表しており、物理的な量（ディスク上のサイズ）を表すものではありません。

制限が設定されていない場合、ブランチバケットの容量は無制限です。詳細については、["容量制限の使用状況"](#)を参照してください。



この設定は、ブランチバケットに直接取り込まれたオブジェクトにのみ適用され、ベースバケットからブランチバケットを通して見えるオブジェクトには適用されません。

4. 必要に応じて、*オブジェクト数の制限を有効にする*を選択します。

オブジェクト数の制限とは、ブランチバケットに格納できるオブジェクトの最大数です。この値は論理的な量（オブジェクト数）を表します。制限が設定されていない場合、オブジェクトの数は無制限です。



この設定は、ブランチバケットに直接取り込まれたオブジェクトにのみ適用され、ベースバケットからブランチバケットを通して見えるオブジェクトには適用されません。

5. 「バケットの作成」を選択します。

ブランチバケットが作成され、バケットページのテーブルに追加されます。

6. オプションで「バケットの詳細ページへ移動」を選択すると、"[ブランチバケットの詳細を表示](#)"追加の設定を行うことができます。

バケットの詳細ページでは、読み取り専用バケットの場合、オブジェクトの変更に関連する一部の設定オプションが無効になっています。

StorageGRID バケットに ILM ポリシータグを適用する

オブジェクトストレージの要件に基づいて、バケットに適用する ILM ポリシータグを選択してください。

ILMポリシーは、オブジェクトデータの保存場所と、一定期間後に削除するかどうかを制御します。グリッド管理者は、複数のアクティブなポリシーを使用する場合、ILMポリシーを作成し、それらをILMポリシータグに割り当てます。



バケットのポリシータグを頻繁に再割り当てすることは避けてください。そうしないと、パフォーマンスの問題が発生する可能性があります。

開始する前に

- テナントマネージャーに "[対応ウェブブラウザ](#)" を使用してサインインしています。
- あなたは、"[ルートアクセス、すべてのバケットの管理、またはすべてのバケットの表示権限](#)" を持つユーザーグループに属しています。これらの権限は、グループポリシーまたはバケットポリシーの権限設定を上書きします。

手順

1. ダッシュボードから「バケットの表示」を選択するか、**STORAGE (S3) > Buckets** を選択してください。

「バケット」ページが表示されます。必要に応じて、任意の列で情報を並べ替えたり、リストを前後に移動したりできます。

2. ILMポリシータグを割り当てるバケットの名前を選択します。

既にタグが割り当てられているバケットに対しても、ILMポリシーのタグ割り当てを変更することができます。



表示されているオブジェクト数と使用容量の値は推定値です。これらの推定値は、データ取り込みのタイミング、ネットワーク接続性、およびノードの状態によって影響を受けます。バケットでバージョン管理が有効になっている場合、削除されたオブジェクトのバージョンもオブジェクト数に含まれます。

3. バケットオプションタブで、ILMポリシータグのアコーディオンを展開します。このアコーディオンは、グリッド管理者がカスタムポリシータグの使用を有効にしている場合にのみ表示されます。
4. 各ポリシータグの説明を読んで、どのタグをバケットに適用すべきかを判断してください。



バケットのILMポリシータグを変更すると、そのバケット内のすべてのオブジェクトに対してILMの再評価が実行されます。新しいポリシーでオブジェクトの保持期間が限定されている場合、古いオブジェクトは削除されます。

5. バケットに割り当てるタグのラジオボタンを選択します。
6. 「変更を保存」を選択します。キー `NTAP-SG-ILM-BUCKET-TAG` とILMポリシータグ名の値を持つ新しいS3バケットタグがバケットに設定されます。



S3アプリケーションが誤って新しいバケットタグを上書きしたり削除したりしないようにしてください。バケットに新しいTagSetを適用する際にこのタグを省略した場合、バケット内のオブジェクトはデフォルトのILMポリシーに基づいて評価されるようになります。



ILMポリシータグの設定および変更は、ILMポリシータグが検証されるテナントマネージャーまたはテナントマネージャーAPIのみを使用して行ってください。S3 PutBucketTagging APIまたはS3 DeleteBucketTagging APIを使用して NTAP-SG-ILM-BUCKET-TAG ILMポリシータグを変更しないでください。



バケットに割り当てられたポリシータグを変更すると、新しいILMポリシーを使用してオブジェクトが再評価される間、一時的にパフォーマンスに影響が出ます。

StorageGRIDバケットポリシーを管理

S3バケットとそのバケット内のオブジェクトに対するユーザーアクセスを制御できます。

開始する前に

- テナントマネージャーに ["対応ウェブブラウザ"](#) を使用してサインインしています。
- あなたは、["ルートアクセス権限"](#)を持つユーザーグループに属しています。「すべてのバケットを表示」および「すべてのバケットを管理」の権限では、表示のみが許可されます。
- 必要な数のストレージノードとサイトが利用可能であることを確認しました。いずれかのサイト内で2つ以上のストレージノードが利用できない場合、またはサイト自体が利用できない場合、これらの設定を変更できない可能性があります。

手順

1. 「Buckets」を選択し、管理するバケットを選択します。
2. バケットの詳細ページで、「Bucket access」>「Bucket policy」を選択します。
3. 次のいずれかを実行します。
 - **Enable policy** チェックボックスを選択して、バケットポリシーを入力します。次に、有効な JSON 形式の文字列を入力します。

各バケットポリシーには、20,480バイトのサイズ制限があります。
 - 文字列を編集することで、既存のポリシーを変更します。
 - ポリシーを有効にする の選択を解除すると、ポリシーが無効になります。

バケットポリシーに関する詳細情報（言語構文や例を含む）については、"[バケットポリシーの例](#)"を参照してください。

StorageGRIDバケットの整合性を管理

整合性値を使用すると、バケット設定変更の可用性を指定したり、バケット内のオブジェクトの可用性と、異なるストレージノードやサイト間でのオブジェクトの整合性とのバランスを取ったりすることができます。クライアントアプリケーションが運用上のニーズを満たすことができるように、整合性値をデフォルト値とは異なる値に変更できます。

開始する前に

- テナントマネージャーに "[対応ウェブブラウザ](#)" を使用してサインインしています。
- あなたは、"[すべてのバケットを管理する、またはルートアクセス権限](#)"を持つユーザーグループに属しています。これらの権限は、グループポリシーまたはバケットポリシーの権限設定を上書きします。

バケットの整合性に関するガイドライン

バケットの整合性は、そのS3バケット内のオブジェクトに影響を与えるクライアントアプリケーションの整合性を判断するために使用されます。一般的に、バケットには **Read-after-new-write** 整合性を使用することをお勧めします。

バケットの整合性の変更

Read-after-new-write の一貫性がクライアントアプリケーションの要件を満たさない場合は、バケットの一貫性を設定するか、`Consistency-Control`ヘッダーを使用することで一貫性を変更できます。`Consistency-Control`ヘッダーはバケットの一貫性を上書きします。



バケットの整合性を変更した場合、変更後に取り込まれたオブジェクトのみが、改訂された設定を満たすことが保証されます。

手順

1. ダッシュボードから「バケットの表示」を選択するか、**STORAGE (S3) > Buckets** を選択してください。
2. 表からバケット名を選択してください。

バケットの詳細ページが表示されます。

3. 「バケットオプション」タブから、**アコーディオンを選択します。
4. このバケット内のオブジェクトに対して実行される操作の一貫性を選択してください。
 - **すべて**: 最高レベルの一貫性を提供します。すべてのノードがデータを即座に受信するか、リクエストは失敗します。
 - **Strong-global**: すべてのサイトにおけるすべてのクライアントリクエストに対して、書き込み後の読み取りの一貫性を保証します。
 - **Strong-site**: サイト内のすべてのクライアントリクエストに対して、書き込み後の読み取りの一貫性を保証します。

- **Read-after-new-write**（デフォルト）：新規オブジェクトに対しては書き込み後の読み取り一貫性を、オブジェクト更新に対しては結果整合性を提供します。高可用性とデータ保護を保証します。ほとんどの場合に推奨されます。
- 利用可能：新規オブジェクトとオブジェクト更新の両方に対して、最終的な一貫性を提供します。S3 バケットの場合は、必要な場合にのみ使用してください（たとえば、めったに読み取られないログ値を含むバケット、または存在しないキーに対するHEADまたはGET操作の場合など）。S3 FabricPool バケットではサポートされていません。

5. 変更を保存 を選択します。

バケットの設定を変更するとどうなりますか？

バケットには、バケット自体の動作やバケット内のオブジェクトの動作に影響を与える複数の設定があります。

以下のバケット設定では、デフォルトで*強力な*一貫性が使用されます。いずれかのサイト内で2つ以上のストレージノードが利用できない場合、またはサイト自体が利用できない場合、これらの設定への変更が反映されない可能性があります。

- ["バックグラウンドでの空バケットの削除"](#)
- ["最終アクセス時間"](#)
- ["バケットのライフサイクル"](#)
- ["バケットポリシー"](#)
- ["バケットタグ付け"](#)
- ["バケットのバージョン管理"](#)
- ["S3 Object Lock"](#)
- ["バケット暗号化"](#)



バケットのバージョン管理、S3 Object Lock、およびバケット暗号化の整合性値は、強整合性でない値に設定することはできません。

以下のバケット設定では、強力な一貫性は使用されず、変更に対する可用性が高くなります。これらの設定を変更しても、反映されるまでには時間がかかる場合があります。

- ["プラットフォームサービス構成：通知、レプリケーション、または検索の統合"](#)
- ["バケットとオブジェクトの StorageGRID CORS を設定する"](#)
- [バケットの整合性を変更する](#)



バケット設定を変更する際に使用されるデフォルトの整合性がクライアントアプリケーションの要件を満たさない場合は、`Consistency-Control`ヘッダーを["S3 REST API"](#)に使用するか、`reducedConsistency`または`force`オプションを["テナント管理API"](#)で使用することで整合性を変更できます。

StorageGRIDで最終アクセス時刻の更新を有効または無効にする

グリッド管理者が StorageGRID システムの情報ライフサイクル管理 (ILM) ルールを作成する際、オブジェクトの最終アクセス時刻を使用して、そのオブジェクトを別のストレージ場所に移動するかどうかを判断するようにオプションで指定できます。S3 テナントを使用している場合は、S3 バケット内のオブジェクトの最終アクセス時刻の更新を有効にすることで、これらのルールを活用できます。

これらの手順は、*最終アクセス時刻*オプションを高度なフィルタまたは参照時刻として使用する ILM ルールを少なくとも1つ含む StorageGRID システムにのみ適用されます。StorageGRID システムにそのようなルールが含まれていない場合は、これらの手順を無視してください。詳細については、["ILMルールで最終アクセス時間を使用する"](#)を参照してください。

開始する前に

- テナントマネージャーに ["対応ウェブブラウザ"](#) を使用してサインインしています。
- あなたは、["すべてのバケットを管理する、またはルートアクセス権限"](#)を持つユーザーグループに属しています。これらの権限は、グループポリシーまたはバケットポリシーの権限設定を上書きします。

タスク概要

*最終アクセス時刻*は、ILM ルールの*参照時刻*配置指示で利用できるオプションの1つです。ルールの参照時刻を最終アクセス時刻に設定すると、グリッド管理者は、オブジェクトが最後に取得（読み取りまたは表示）された時刻に基づいて、オブジェクトを特定のストレージの場所に配置するよう指定できます。

例えば、最近閲覧したオブジェクトがより高速なストレージに保持されるようにするには、グリッド管理者は次のような ILM ルールを作成できます：

- 過去1か月以内に取得されたオブジェクトは、ローカルストレージノード上に保持されるべきです。
- 過去 1 か月以内に取得されなかったオブジェクトは、オフサイトの場所に移動する必要があります。

デフォルトでは、最終アクセス時刻の更新は無効になっています。StorageGRID システムに 最終アクセス時刻 オプションを使用する ILM ルールが含まれており、このオプションをこのバケット内のオブジェクトに適用する場合は、そのルールで指定されている S3 バケットの最終アクセス時刻の更新を有効にする必要があります。



オブジェクトが取得されたときに最終アクセス時刻を更新すると、特に小さいオブジェクトの場合、StorageGRID のパフォーマンスが低下する可能性があります。

最終アクセス時刻の更新によりパフォーマンスに影響が生じます。これは、オブジェクトを取得するたびに、StorageGRID が以下の追加手順を実行する必要があるためです。

- オブジェクトを新しいタイムスタンプで更新する
- オブジェクトを ILM キューに追加して、現在の ILM ルールとポリシーに基づいて再評価できるようにします。

この表は、最終アクセス時刻が無効または有効になっている場合に、バケット内のすべてのオブジェクトに適用される動作をまとめたものです。

リクエストの種類	最終アクセス時刻が無効になっている場合の動作（デフォルト）		最終アクセス時刻が有効になっている場合の動作	
	最終アクセス時刻は更新されましたか？	オブジェクトがILM評価キューに追加されましたか？	最終アクセス時刻は更新されましたか？	オブジェクトがILM評価キューに追加されましたか？
HEAD操作が発行された際に、オブジェクトのメタデータを取得する要求	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
オブジェクト、そのアクセス制御リスト、またはそのメタデータを取得するリクエスト	いいえ	いいえ	はい	はい
オブジェクトのメタデータを更新するリクエスト	はい	はい	はい	はい
オブジェクトまたはオブジェクトバージョンの一覧表示リクエスト	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
あるバケットから別のバケットへオブジェクトをコピーするリクエスト	• いいえ、ソースコピーについては • はい、宛先コピーの場合	• いいえ、ソースコピーについては • はい、宛先コピーの場合	• はい、ソースコピーの場合 • はい、宛先コピーの場合	• はい、ソースコピーの場合 • はい、宛先コピーの場合
複数パートのアップロードを完了するようリクエストします	はい、組み立てられたオブジェクトの場合	はい、組み立てられたオブジェクトの場合	はい、組み立てられたオブジェクトの場合	はい、組み立てられたオブジェクトの場合

手順

1. ダッシュボードから「バケットの表示」を選択するか、**STORAGE (S3) > Buckets** を選択してください。
2. 表からバケット名を選択してください。

バケットの詳細ページが表示されます。

3. *バケットオプション*タブから、*最終アクセス時刻の更新*アコーディオンを選択します。
4. 最終アクセス時刻の更新を有効または無効にします。

5. 変更を保存 を選択します。

StorageGRID の S3 バケットのオブジェクトバージョニングを変更する

S3テナントを使用している場合は、S3バケットのバージョン管理状態を変更できます。

開始する前に

- テナントマネージャーに ["対応ウェブブラウザ"](#) を使用してサインインしています。
- あなたは、["すべてのバケットを管理する、またはルートアクセス権限"](#)を持つユーザーグループに属しています。これらの権限は、グループポリシーまたはバケットポリシーの権限設定を上書きします。
- 必要な数のストレージノードとサイトが利用可能であることを確認しました。いずれかのサイト内で2つ以上のストレージノードが利用できない場合、またはサイト自体が利用できない場合、これらの設定を変更できない可能性があります。

タスク概要

バケットのオブジェクトバージョン管理を有効化または一時停止できます。バケットのバージョン管理を有効にすると、バージョン管理されていない状態に戻すことはできません。ただし、バケットのバージョン管理を一時停止することは可能です。

- 無効：バージョン管理は一度も有効になっていません
- 有効：バージョン管理が有効になっています
- 一時停止：バージョン管理は以前は有効でしたが、現在は一時停止されています

詳細については、次を参照してください。

- ["オブジェクトのバージョン管理"](#)
- ["S3バージョン管理対象オブジェクトに関するILMルールとポリシー（例4）"](#)
- ["オブジェクトが削除される方法"](#)

手順

1. ダッシュボードから「バケットの表示」を選択するか、**STORAGE (S3) > Buckets** を選択してください。
2. 表からバケット名を選択してください。

バケットの詳細ページが表示されます。

3. 「バケットオプション」タブから、「オブジェクトバージョン管理」のアコーディオンを選択します。
4. このバケット内のオブジェクトのバージョン管理状態を選択してください。

クロスグリッドレプリケーションに使用されるバケットでは、オブジェクトのバージョン管理を有効にしておく必要があります。S3オブジェクトロックまたはレガシーコンプライアンスが有効になっている場合、***オブジェクトバージョニング***オプションは無効になります。

オプション	説明
バージョン管理を有効にする	このバケットに各オブジェクトのすべてのバージョンを保存する場合は、オブジェクトのバージョン管理を有効にしてください。必要に応じて、オブジェクトの以前のバージョンを取得できます。 バケット内に既に存在するオブジェクトは、ユーザーによって変更されるとバージョン管理されます。
バージョン管理を一時停止する	新しいオブジェクトバージョンの作成を不要とする場合は、オブジェクトのバージョン管理を一時停止してください。既存のオブジェクトバージョンは引き続き取得できます。

5. 変更を保存 を選択します。

S3オブジェクトロックを使用してStorageGRIDでオブジェクトを保持します

バケットとオブジェクトが保持に関する規制要件を遵守する必要がある場合は、S3 Object Lockを使用できます。



S3 Object Lockの特定の機能を使用するには、グリッド管理者の許可が必要です。

S3オブジェクトロックとは何ですか？

StorageGRID S3 Object Lock機能は、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) のS3 Object Lockと同等のオブジェクト保護ソリューションです。

グローバル S3 オブジェクトロック設定が StorageGRID システムで有効になっている場合、S3 テナントアカウントは S3 オブジェクトロックを有効にするかどうかにかかわらず、バケットを作成できます。バケットで S3 オブジェクトロックが有効になっている場合、バケットのバージョン管理が必要となり、自動的に有効になります。

S3オブジェクトロックが設定されていないバケットには、保持設定が指定されていないオブジェクトのみを含めることができます。取り込まれたオブジェクトには、保持設定は適用されません。

S3オブジェクトロックが有効になっているバケットには、S3クライアントアプリケーションによって指定された保持設定のあるオブジェクトと、保持設定のないオブジェクトの両方を含めることができます。取り込まれたオブジェクトの中には、保持設定が指定されているものがあります。

S3 Object Lockとデフォルトの保持期間が設定されているバケットには、保持設定が指定されたアップロード済みオブジェクトと、保持設定のない新規オブジェクトが存在する可能性があります。新規オブジェクトはデフォルト設定を使用します。これは、オブジェクトレベルで保持設定が構成されていないためです。

デフォルトの保持設定が有効になっている場合、新しく取り込まれたすべてのオブジェクトには、実質的に保持設定が適用されます。オブジェクト保持設定が適用されていない既存のオブジェクトは影響を受けません。

保持モード

StorageGRID S3オブジェクトロック機能は、オブジェクトに対して異なるレベルの保護を適用するための2つの保持モードをサポートしています。これらのモードは、Amazon S3の保持モードと同等です。

- コンプライアンスモードの場合：
 - オブジェクトは、保持期限が到来するまで削除できません。
 - オブジェクトの保持期限は延長できますが、短縮することはできません。
 - オブジェクトの保持期限日は、その日付が到来するまで削除することはできません。
- ガバナンスモードでは：
 - 特別な権限を持つユーザーは、リクエストにバイパスヘッダーを使用することで、特定の保持設定を変更できます。
 - これらのユーザーは、オブジェクトのバージョンが保持期限に達する前に削除できます。
 - これらのユーザーは、オブジェクトの保持期限を増減または削除できます。

オブジェクトバージョンの保持設定

S3オブジェクトロックを有効にしてバケットを作成する場合、ユーザーはS3クライアントアプリケーションを使用して、バケットに追加される各オブジェクトに対して、以下の保持設定を任意で指定できます。

- 保持モード：コンプライアンスまたはガバナンスのいずれか。
- **Retain-until-date**：オブジェクトバージョンの保持期限が将来の日付の場合、オブジェクトは取得できますが、削除することはできません。
- 法的保留：オブジェクトのバージョンに法的保留を適用すると、そのオブジェクトは即座にロックされます。例えば、調査や法的紛争に関連するオブジェクトに対して、法的保留を適用する必要がある場合があります。法的保留には有効期限はなく、明示的に解除されるまで有効です。法的保留は、保管期限とは無関係です。



オブジェクトが法的保留状態にある場合、その保持モードに関係なく、誰もそのオブジェクトを削除することはできません。

オブジェクト設定の詳細については、"[S3 REST APIを使用してS3オブジェクトロックを設定する](#)"を参照してください。

バケットのデフォルトの保持設定

S3 Object Lockを有効にしてバケットを作成する場合、ユーザーはオプションでバケットの以下のデフォルト設定を指定できます。

- デフォルトの保持モード：コンプライアンスまたはガバナンスのいずれか。
- デフォルトの保持期間：このバケットに追加された新しいオブジェクトバージョンを、追加された日からどのくらいの期間保持するか。

デフォルトのバケット設定は、独自の保持設定を持たない新規オブジェクトにのみ適用されます。これらのデフォルト設定を追加または変更しても、既存のバケットオブジェクトには影響しません。

"[S3バケットを作成する](#)"および"[S3オブジェクトロックのデフォルト保持期間を更新する](#)"を参照してください

い。

S3オブジェクトロックタスク

グリッド管理者とテナントユーザー向けの以下のリストには、S3 Object Lock機能を使用するための概要タスクが含まれています。

グリッド管理者

- StorageGRID システム全体のグローバル S3 オブジェクトロック設定を有効にします。
- 情報ライフサイクル管理 (ILM) ポリシーが 準拠 していること、つまり、**"S3オブジェクトロックが有効になっているバケットの要件"**を満たしていることを確認してください。
- 必要に応じて、テナントが保持モードとして Compliance を使用できるようにします。それ以外の場合は、Governance モードのみが許可されます。
- 必要に応じて、テナントの最大保持期間を設定します。

テナントユーザー

- S3 Object Lockを使用するバケットとオブジェクトに関する考慮事項を確認してください。
- 必要に応じて、グリッド管理者に連絡して、グローバル S3 オブジェクトロック設定を有効にし、権限を設定してください。
- S3オブジェクトロックを有効にしたバケットを作成します。
- 必要に応じて、バケットのデフォルトの保持設定を構成します。
 - デフォルトの保持モード：グリッド管理者が許可した場合、Governance または Compliance。
 - デフォルトの保持期間：グリッド管理者が設定した最大保持期間以下である必要があります。
- S3クライアントアプリケーションを使用してオブジェクトを追加し、必要に応じてオブジェクト固有の保持期間を設定します。
 - 保持モード。グリッド管理者が許可する場合、ガバナンスまたはコンプライアンス。
 - 保持期限日：グリッド管理者が設定した最大保持期間以下である必要があります。

S3オブジェクトロックが有効になっているバケットの要件

- StorageGRID システムでグローバル S3 オブジェクトロック設定が有効になっている場合は、テナントマネージャー、テナント管理 API、または S3 REST API を使用して、S3 オブジェクトロックを有効にしたバケットを作成できます。
- S3オブジェクトロックを使用する場合は、バケットを作成する際にS3オブジェクトロックを有効にする必要があります。既存のバケットに対してS3オブジェクトロックを有効にすることはできません。
- バケットに対して S3 オブジェクトロックが有効になっている場合、StorageGRID はそのバケットのバージョン管理を自動的に有効にします。S3 オブジェクトロックを無効にしたり、バケットのバージョン管理を一時停止したりすることはできません。
- オプションとして、テナントマネージャー、テナント管理API、またはS3 REST APIを使用して、各バケットのデフォルトの保持モードと保持期間を指定できます。バケットのデフォルトの保持設定は、独自の保持設定を持たない、バケットに追加された新しいオブジェクトにのみ適用されます。オブジェクトのバージョンごとに、アップロード時に保持モードと保持期限を指定することで、これらのデフォルト設定を上書きできます。
- S3 Object Lockが有効になっているバケットでは、バケットのライフサイクル設定がサポートされていま

す。

- CloudMirror レプリケーションは、S3 オブジェクトロックが有効になっているバケットではサポートされていません。

S3オブジェクトロックが有効になっているバケット内のオブジェクトの要件

- オブジェクトのバージョンを保護するには、バケットのデフォルトの保持設定を指定するか、オブジェクトのバージョンごとに保持設定を指定できます。オブジェクトレベルの保持設定は、S3クライアントアプリケーションまたはS3 REST APIを使用して指定できます。
- 保持設定は、個々のオブジェクトバージョンに適用されます。オブジェクトのバージョンには、保持期限と法的保留設定の両方を設定できる場合もあれば、どちらか一方のみを設定できる場合、あるいはどちらも設定できない場合もあります。オブジェクトに対して保持期限または法的保留設定を指定すると、リクエストで指定されたバージョンのみが保護されます。オブジェクトの新しいバージョンを作成できますが、以前のバージョンのオブジェクトはロックされたままです。

S3オブジェクトロックが有効になっているバケット内のオブジェクトのライフサイクル

S3 Object Lockが有効になっているバケットに保存された各オブジェクトは、以下の段階を経ます：

1. オブジェクトの取り込み

S3オブジェクトロックが有効になっているバケットにオブジェクトバージョンが追加されると、保持設定は次のように適用されます：

- オブジェクトに対して保持設定が指定されている場合、オブジェクトレベルの設定が適用されます。デフォルトのバケット設定はすべて無視されます。
- オブジェクトに対して保持設定が指定されていない場合、デフォルトのバケット設定が存在すれば、それが適用されます。
- オブジェクトまたはバケットに対して保持設定が指定されていない場合、そのオブジェクトはS3 Object Lockによって保護されません。

保持設定が適用されている場合、オブジェクトと S3 ユーザー定義メタデータの両方が保護されます。

2. オブジェクトの保持と削除

保護対象オブジェクトの複数のコピーが、指定された保存期間の間、StorageGRID によって保存されます。オブジェクトのコピーの正確な数と種類、および保存場所は、有効な ILM ポリシーの準拠ルールによって決定されます。保護対象オブジェクトが保持期限日前に削除できるかどうかは、その保持モードによって異なります。

- オブジェクトが法的保留状態にある場合、その保持モードに関係なく、誰もそのオブジェクトを削除することはできません。

従来の準拠バケットは引き続き管理できますか？

S3オブジェクトロック機能は、以前のStorageGRIDバージョンで利用可能だったコンプライアンス機能に取って代わるものです。以前のバージョンのStorageGRIDを使用して準拠バケットを作成した場合、これらのバケットの設定は引き続き管理できますが、新しい準拠バケットを作成することはできなくなります。手順について

は、https://kb.netapp.com/Advice_and_Troubleshooting/Hybrid_Cloud_Infrastructure/StorageGRID/How_to_manage_legacy_Compliant_buckets_in_StorageGRID_11.5/["NetApp ナレッジベース：StorageGRID 11.5 でレ

ガシ準拠バケットを管理する方法"]を参照してください。

StorageGRIDでS3オブジェクトロックのデフォルトの保持期間を更新

バケット作成時にS3オブジェクトロックを有効にした場合、バケットを編集してデフォルトの保持設定を変更できます。デフォルトの保持を有効（または無効）にしたり、デフォルトの保持モードと保持期間を設定したりできます。

開始する前に

- テナントマネージャーに ["対応ウェブブラウザ"](#) を使用してサインインしています。
- あなたは、["すべてのバケットを管理する、またはルートアクセス権限"](#)を持つユーザーグループに属しています。これらの権限は、グループポリシーまたはバケットポリシーの権限設定を上書きします。
- S3 オブジェクトロックはStorageGRIDシステムに対してグローバルに有効化されており、バケットの作成時にS3 オブジェクトロックを有効にしました。["S3オブジェクトロックを使用してオブジェクトを保持する"](#)を参照してください。

手順

1. ダッシュボードから「バケットの表示」を選択するか、**STORAGE (S3) > Buckets** を選択してください。
2. 表からバケット名を選択してください。

バケットの詳細ページが表示されます。

3. 「Bucket options」タブから、「S3 Object Lock」の acordeion を選択します。
4. 必要に応じて、このバケットの*デフォルトの保持期間*を有効または無効にします。

この設定の変更は、既にバケット内に存在するオブジェクト、または独自の保持期間が設定されているオブジェクトには適用されません。

5. *デフォルト保持*が有効になっている場合は、バケットの*デフォルト保持モード*を指定してください。

デフォルトの保持モード	説明
ガバナンス	• `s3:BypassGovernanceRetention` 権限を持つユーザーは、`x-amz-bypass-governance-retention: true` リクエストヘッダーを使用して保持設定をバイパスできます。 • これらのユーザーは、オブジェクトのバージョンが保持期限に達する前に削除できます。 • これらのユーザーは、オブジェクトの保持期限を増減または削除できます。

デフォルトの保持モード	説明
コンプライアンス	- オブジェクトは、保持期限が到来するまで削除できません。 - オブジェクトの保持期限は延長できますが、短縮することはできません。 - オブジェクトの保持期限日は、その日付が到来するまで削除することはできません。 注：グリッド管理者がコンプライアンスモードの使用を許可している必要があります。

6. *デフォルト保持*が有効になっている場合は、バケットの*デフォルト保持期間*を指定してください。

*デフォルトの保持期間*は、このバケットに追加された新しいオブジェクトが、取り込まれた時点からどのくらいの期間保持されるかを示します。グリッド管理者が設定したテナントの最大保持期間以下の値を指定してください。

_最大_保持期限は、グリッド管理者がテナントを作成する際に設定されます。この値は1日から100年までの範囲で設定可能です。_デフォルト_の保持期限を設定する場合、最大保持期限に設定された値を超えることはできません。必要に応じて、グリッド管理者に最大保持期限の延長または短縮を依頼してください。

7. 変更を保存 を選択します。

StorageGRIDでS3バケットのCORSを設定する

S3バケットとそのバケット内のオブジェクトを他のドメインのWebアプリケーションからアクセス可能にしたい場合は、S3バケットに対してクロスオリジンリソース共有（CORS）を設定できます。

開始する前に

- テナントマネージャーに ["対応ウェブブラウザ"](#) を使用してサインインしています。
- GET CORS 設定リクエストの場合、あなたは以下の権限を持つユーザーグループに属しています。 ["すべてのバケットを管理する、またはすべてのバケットを表示する権限"](#)これらの権限は、グループポリシーまたはバケットポリシーの権限設定を上書きします。
- PUT CORS 設定リクエストの場合、あなたは["すべてのバケットの権限を管理する"](#)を持つユーザーグループに属しています。この権限は、グループポリシーまたはバケットポリシーの権限設定を上書きします。
- ["ルートアクセス権限"](#)は、すべてのCORS設定リクエストへのアクセスを提供します。

タスク概要

クロスオリジンリソース共有（CORS）は、あるドメインのクライアントWebアプリケーションが別のドメインのリソースにアクセスできるようにするセキュリティメカニズムです。たとえば、グラフィックを保存するために`images`という名前のS3バケットを使用するとします。`images`バケットにCORSを設定することで、そのバケット内の画像をウェブサイト`http://www.example.com`に表示できるようになります。

バケットの**CORS**を有効にする

手順

1. テキストエディタを使用して、必要なXMLを作成します。この例は、S3バケットでCORSを有効にするために使用されるXMLを示しています。具体的には：
 - 任意のドメインがバケットにGETリクエストを送信できるようにします
 - `http://www.example.com`ドメインにGET、POST、およびDELETEリクエストの送信のみを許可します
 - すべてのリクエストヘッダーが許可されます

```
<CORSConfiguration
  xmlns="http://s3.amazonaws.com/doc/2020-10-22/">
  <CORSRule>
    <AllowedOrigin>*</AllowedOrigin>
    <AllowedMethod>GET</AllowedMethod>
    <AllowedHeader>*</AllowedHeader>
  </CORSRule>
  <CORSRule>
    <AllowedOrigin>http://www.example.com</AllowedOrigin>
    <AllowedMethod>GET</AllowedMethod>
    <AllowedMethod>POST</AllowedMethod>
    <AllowedMethod>DELETE</AllowedMethod>
    <AllowedHeader>*</AllowedHeader>
  </CORSRule>
</CORSConfiguration>
```

CORS設定XMLの詳細については、"[Amazon Web Services \(AWS\) ドキュメント：Amazon Simple Storage Service ユーザーガイド](#)"を参照してください。

2. ダッシュボードから「バケットの表示」を選択するか、**STORAGE (S3) > Buckets** を選択してください。
3. 表からバケット名を選択してください。

バケットの詳細ページが表示されます。

4. 「Bucket access」タブから、「Cross-Origin Resource Sharing (CORS)」のアコーディオンを選択します。
5. 「CORSを有効にする」チェックボックスを選択します。
6. CORS設定XMLをテキストボックスに貼り付けてください。
7. 変更を保存 を選択します。

CORS設定を変更する

手順

1. テキストボックス内のCORS設定XMLを更新するか、*クリア*を選択して最初からやり直してください。

2. 変更を保存 を選択します。

CORS設定を無効にする

手順

1. **Enable CORS** チェックボックスをオフにします。
2. 変更を保存 を選択します。

関連情報

["管理インターフェイス用に StorageGRID CORS を設定する"](#)

StorageGRID S3バケットからオブジェクトを削除する

テナントマネージャーを使用すると、1つまたは複数のバケット内のオブジェクトを削除できます。

考慮事項と要件

これらの手順を実行する前に、以下の点に注意してください。

- バケット内のオブジェクトを削除すると、StorageGRID は選択した各バケット内のすべてのオブジェクトとすべてのオブジェクトバージョンを、StorageGRID システム内のすべてのノードとサイトから完全に削除します。StorageGRID は、関連するオブジェクトメタデータもすべて削除します。この情報は復元できません。
- バケット内のすべてのオブジェクトを削除するには、オブジェクトの数、オブジェクトのコピー数、および同時実行操作の数に応じて、数分、数日、あるいは数週間かかる場合があります。
- バケットに"[S3オブジェクトロックが有効になっています](#)"がある場合、*オブジェクトの削除：読み取り専用*状態が_年間_続く可能性があります。



S3 Object Lock を使用するバケットは、すべてのオブジェクトの保持期限が到達し、法的ホールドがすべて解除されるまで、*オブジェクトの削除中：読み取り専用*の状態が維持されます。

- オブジェクトが削除されている間、バケットの状態は*Deleting objects: read-only*となります。この状態では、バケットに新しいオブジェクトを追加することはできません。
- すべてのオブジェクトが削除されると、バケットは読み取り専用状態のままになります。以下のいずれかを実行できます。
 - バケットを書き込みモードに戻し、新しいオブジェクトに再利用する
 - バケットを削除します
 - バケットの名前を将来の使用のために確保するには、バケットを読み取り専用モードにしておきます。
- バケットでオブジェクトのバージョニングが有効になっている場合、StorageGRID 11.8以降で作成された削除マークは、バケット内のオブジェクトの削除操作を使用して削除できます。
- バケットでオブジェクトのバージョニングが有効になっている場合、オブジェクトの削除操作では、StorageGRID 11.7以前で作成された削除マークは削除されません。バケット内のオブジェクトの削除については、"[S3 バージョン管理されたオブジェクトはどのように削除されるのか](#)"を参照してください

い。

- "グリッド間複製"を使用する場合は、以下の点にご注意ください。
 - このオプションを使用しても、他のグリッド上のバケットからオブジェクトは削除されません。
 - ソースバケットでこのオプションを選択した場合、別のグリッド上の宛先バケットにオブジェクトを追加すると、「クロスグリッドレプリケーション失敗」アラートがトリガーされます。他のグリッドのバケットに誰もオブジェクトを追加しないことを保証できない場合は、すべてのバケットオブジェクトを削除する前に、そのバケットに対して"グリッド間レプリケーションを無効にする"を実行してください。

開始する前に

- テナントマネージャーに "対応ウェブブラウザ" を使用してサインインしています。
- あなたは、"ルートアクセス権限" を持つユーザーグループに属しています。この権限は、グループポリシーまたはバケットポリシーの権限設定を上書きします。

手順

1. ダッシュボードから「バケットの表示」を選択するか、**STORAGE (S3) > Buckets** を選択してください。

「バケット」ページが表示され、既存のすべての S3 バケットが表示されます。

2. 特定のバケットの **Actions** メニューまたは詳細ページを使用してください。

[操作]メニュー

- a. オブジェクトを削除するバケットごとにチェックボックスを選択してください。
- b. **Actions > Delete objects in bucket** を選択します。

詳細ページ

- a. 詳細を表示するには、バケット名を選択してください。
- b. 「バケット内のオブジェクトを削除」を選択します。

3. 確認ダイアログボックスが表示されたら、内容を確認し、**Yes** と入力して **OK** を選択してください。
4. 削除処理が開始されるまでお待ちください。

数分後：

- バケットの詳細ページに黄色のステータスバナーが表示されます。進行状況バーは、削除されたオブジェクトの割合を示しています。
- バケット詳細ページでは、バケット名の後に **(read-only)** と表示されます。
- バケットページでは、バケット名の横に*(オブジェクトの削除：読み取り専用)*と表示されます。

Buckets > my-bucket

my-bucket (read-only)

Region: us-east-1

Date created: 2022-12-14 10:09:50 MST

Object count: 3

View bucket contents in Experimental S3 Console

Delete bucket

 **All bucket objects are being deleted**

StorageGRID is deleting all copies of the objects in this bucket, which might take days or weeks. While objects are being deleted, the bucket is read only. To stop the operation, select **Stop deleting objects**. You cannot restore objects that have already been deleted.

0% (0 of 3 objects deleted)

Stop deleting objects

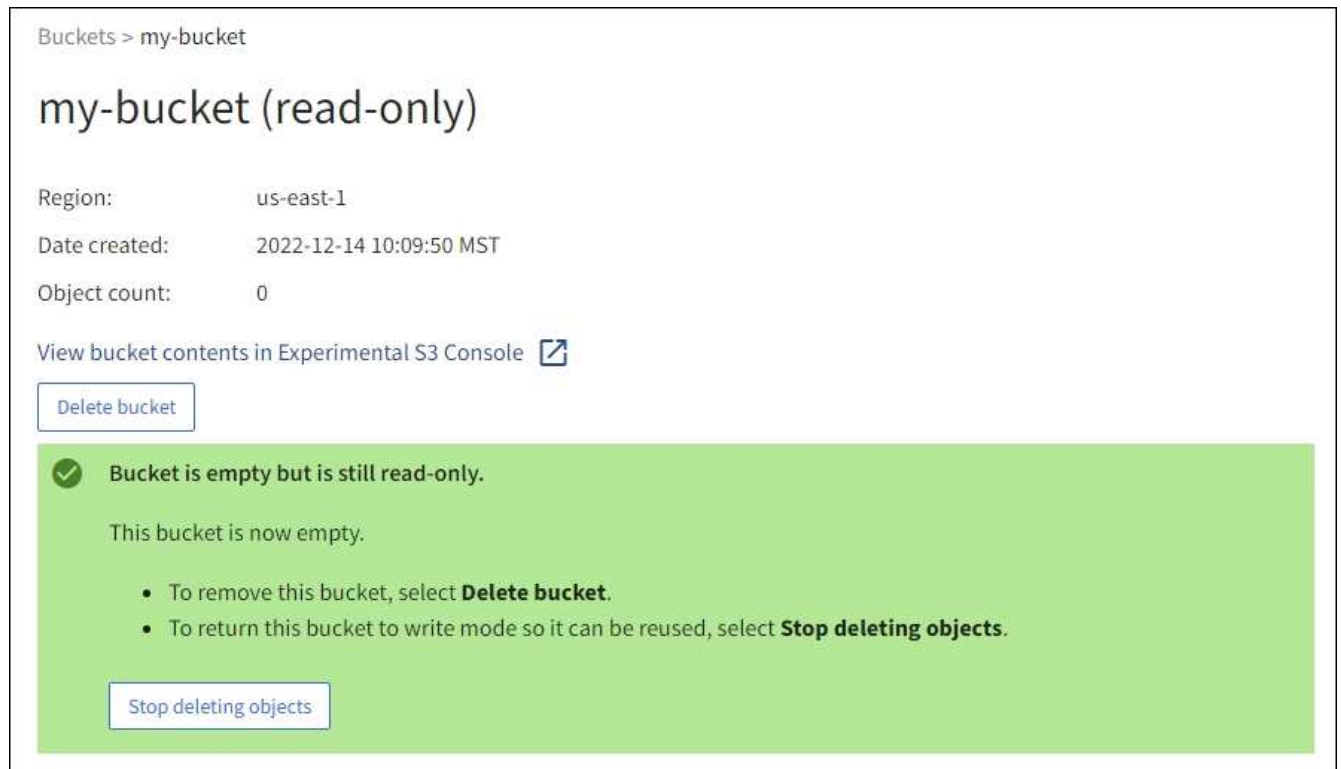
Success
Starting to delete objects from one bucket.

5. 操作の実行中に必要に応じて、オブジェクトの削除を停止 を選択して処理を停止してください。次に、必要に応じて バケット内のオブジェクトを削除 を選択して処理を再開します。

「オブジェクトの削除を停止」を選択すると、バケットは書き込みモードに戻りますが、削除されたオブジェクトにアクセスしたり復元したりすることはできません。

6. 操作が完了するまでお待ちください。

バケットが空になると、ステータスバナーは更新されますが、バケットは読み取り専用のままです。



7. 次のいずれかを実行します。

- バケットを読み取り専用モードのままにするには、ページを閉じてください。例えば、空のバケットを読み取り専用モードで保持しておけば、バケット名を将来の使用のために確保しておくことができます。
- バケットを削除します。単一のバケットを削除するには「バケットを削除」を選択し、複数のバケットを削除するには「バケット」ページに戻って「アクション」>「バケットを削除」を選択します。



すべてのオブジェクトを削除した後でもバージョン管理されたバケットを削除できない場合、削除マーカが残る可能性があります。バケットを削除するには、残っている削除マーカをすべて削除する必要があります。

- バケットを書き込みモードに戻し、必要に応じて新しいオブジェクトに再利用します。単一のバケットに対して「オブジェクトの削除を停止」を選択するか、バケットページに戻って「アクション」>「オブジェクトの削除を停止」を選択して複数のバケットに対して操作することができます。

StorageGRID S3 バケットを削除する

テナントマネージャーを使用すると、空になった S3 バケットを 1 つまたは複数削除できます。

開始する前に

- テナントマネージャーに "対応ウェブブラウザ" を使用してサインインしています。
- あなたは、"すべてのバケットを管理する、またはルートアクセス権限"を持つユーザーグループに属しています。これらの権限は、グループポリシーまたはバケットポリシーの権限設定を上書きします。
- 削除しようとしているバケットは空です。削除したいバケットが空でない場合、"バケットからオブジェクトを削除する"。

タスク概要

これらの手順では、テナントマネージャーを使用してS3バケットを削除する方法について説明します。S3バケットは、"[テナント管理API](#)"または"[S3 REST API](#)"を使用して削除することもできます。

S3バケットにオブジェクト、最新ではないオブジェクトバージョン、または削除マーカが含まれている場合、そのバケットを削除することはできません。S3バージョン管理されたオブジェクトの削除方法については、"[オブジェクトが削除される方法](#)"を参照してください。

手順

1. ダッシュボードから「バケットの表示」を選択するか、**STORAGE (S3) > Buckets** を選択してください。

「バケット」ページが表示され、既存のすべての S3 バケットが表示されます。

2. 特定のバケットの **Actions** メニューまたは詳細ページを使用してください。

[操作]メニュー

- a. 削除する各バケットのチェックボックスを選択します。
- b. **Actions > Delete buckets** を選択します。

詳細ページ

- a. 詳細を表示するには、バケット名を選択してください。
- b. 「バケットを削除」を選択します。

3. 確認ダイアログボックスが表示されたら、**Yes** を選択してください。

StorageGRID は各バケットが空であることを確認し、その後各バケットを削除します。この操作には数分かかる場合があります。

バケットが空でない場合、エラーメッセージが表示されます。バケットを削除する前に、"[バケット内のすべてのオブジェクトと削除マーカを削除します](#)"必要があります。

StorageGRIDでS3コンソールを使用する

S3コンソールを使用すると、S3バケット内のオブジェクトを表示および管理できます。

S3 Consoleでは以下のことが可能です：

- オブジェクトのアップロード、ダウンロード、名前変更、コピー、移動、削除
- オブジェクトのバージョンを表示、元に戻す、ダウンロード、削除する
- 接頭辞でオブジェクトを検索
- オブジェクトタグを管理する
- オブジェクトのメタデータを表示する
- フォルダの表示、作成、名前変更、コピー、移動、削除

S3 Consoleは、最も一般的なケースにおいて、ユーザーエクスペリエンスを向上させます。これは、あらゆる状況においてCLIやAPI操作を置き換えることを目的としたものではありません。



S3 Console を使用した結果、操作に時間がかかりすぎる場合（たとえば、数分または数時間）、以下を検討してください。

- 選択オブジェクトの数を減らす
- 非グラフィカルな方法（APIまたはCLI）を使用してデータにアクセスする

開始する前に

- テナントマネージャーに ["対応ウェブブラウザ"](#) を使用してサインインしています。
- オブジェクトを管理するには、ルートアクセス権限を持つユーザーグループに属している必要があります。または、S3コンソールタブの使用権限と、すべてのバケットの表示権限またはすべてのバケットの管理権限のいずれかを持つユーザーグループに属している必要があります。参照してください["テナント管理権限"](#)。
- ユーザーに対してS3グループまたはバケットポリシーが設定されています。["バケットおよびグループのアクセスポリシーを使用する"](#)を参照してください。
- ユーザーのアクセスキーIDとシークレットアクセスキーを把握しています。オプションとして、この情報を含む`.csv`ファイルを用意します。["アクセスキーの作成手順"](#)を参照してください。

手順

1. ストレージ>バケット>*バケット名*を選択します。
2. S3コンソールタブを選択します。
3. アクセスキーIDとシークレットアクセスキーをそれぞれのフィールドに貼り付けてください。それ以外の場合は、「アクセスキーをアップロード」を選択し、`.csv`ファイルを選択してください。
4. 「サインイン」を選択します。
5. バケットオブジェクトのテーブルが表示されます。必要に応じてオブジェクトを管理できます。

その他の情報

- 接頭辞による検索：接頭辞検索機能は、現在のフォルダーに関連する特定の単語で始まるオブジェクトのみを検索します。検索対象には、他の箇所にその単語が含まれているオブジェクトは含まれません。このルールは、フォルダ内のオブジェクトにも適用されます。例えば、`folder1/folder2/somefile-`を検索すると、`folder1/folder2/`フォルダー内にあり、`somefile-`という単語で始まるオブジェクトが返されます。
- ドラッグ&ドロップ：コンピューターのファイルマネージャーから S3 Console にファイルをドラッグ&ドロップできます。ただし、フォルダをアップロードすることはできません。
- フォルダに対する操作：フォルダを移動、コピー、または名前変更すると、フォルダ内のすべてのオブジェクトが一度に1つずつ更新されるため、時間がかかる場合があります。
- バケットのバージョン管理が無効になっている場合の完全削除：バージョン管理が無効になっているバケット内のオブジェクトを上書きまたは削除すると、その操作は永続的になります。参照してください["バケットのオブジェクトバージョン管理を変更する"](#)。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。